

結核の現状

日本の結核の現状

日本では、約1万人近くの方が新たに結核に罹り、約1,600人の方が結核で亡くなっています。

2022年、日本の結核罹患率（人口10万対）が8.2となり、日本も念願の結核低蔓延国の仲間入りを果たしたものの、未だ、日本は、欧米先進国に比べまだまだ結核が多く、対策の手を止めるわけにはいきません。（データは2022年）



日本の新規登録者及び死亡者数(2022年)

新登録患者数 <small>(新たに結核と診断され登録された人数)</small> 岐阜 196人 <small>(全国 10,235人)</small>	罹患率 岐阜 10.1 <small>(全国 8.2)</small>
結核死亡数 岐阜 16人 <small>(全国 1,664人)</small>	死亡率 岐阜 0.8 <small>(全国 1.4)</small>

(率は人口10万対)



→「2022年結核登録者情報調査年報集計結果」<厚生労働省>

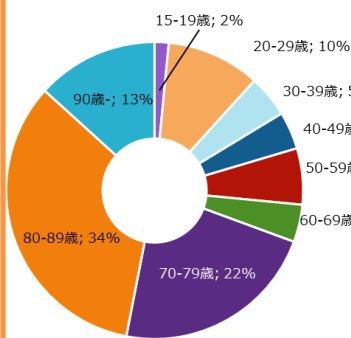
岐阜県の結核の現状

岐阜県の結核の現状(令和4年)

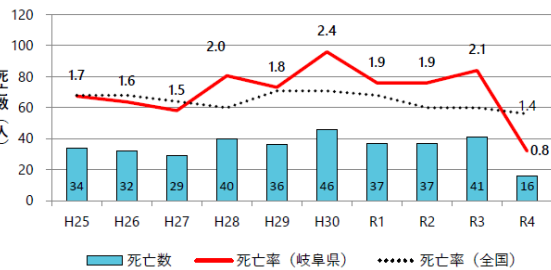


新たに結核として登録される人数は概ね減少傾向にあるものの、岐阜県の数値は全国と比較すると高く(10万人当たり全国8.2人、岐阜10.1人。高齢者の割合は依然として増加傾向にあります。(70歳以上が70%を占める。)

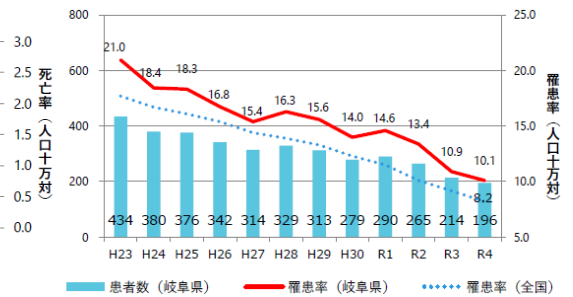
年齢層別新規登録者数



結核死亡者数及び死亡率の年次推移 (人口10万対)



新登録結核患者数及び罹患率の年次推移 (人口10万対)



→「岐阜県の結核の現状」<岐阜県>

世界の結核の現状

～総人口の約1/4が既に結核に感染～ ～アジアとアフリカに多い結核～

世界に目を向けると、1,060万人が新たに結核を発病し、130万人が結核で命を落としています(データは2022年)。そのほとんどが、アジアとアフリカを中心とした発展途上国に集中しています。未だに世界では、結核が最大の感染症として働き盛りの世代を直撃し、世界的な対策なしには自国の結核制圧も達成できない状況下にあります。

また、結核はエイズウイルス(HIV)感染者の主な死因であり、アフリカを中心とした HIV/エイズとの二重感染は依然として深刻な状況にあります。

結核予防会は、WHO・ストップ結核パートナーシップ等に積極的に参加し、結核対策に貢献する研究を推進し、「世界の結核センター」としての役割を果たしていくべきであると考えています。

→「ストップ結核パートナーシップ」